



沼澤道也 議員

沼澤道也議員 「地域包括医療・ケアと町立診療所のあり方について」の報告書（庁内検討会）が1月27日提出されたのでこれをもとに診療所のこれからについて伺いたい。まず現状と課題についての論点整理と背景について伺う。

の要因と整理され、①外科系を含む多様な医療ニーズに応えられていないこと、②職員の不適切な対応や接遇態度により患者の不満や不安を生んでいること、で利用者の減少を生み、診療収入の減少から、町の財政負担の増加につながっている。

土屋副町長 平成20年から診療所になり、平成25年度に「診療所の将来ビジョン検討プロジェクト」が立ち上がり、今回が2度目の検討会となっている。現状の利用患者数の減少と経営問題についての論点整理は大きく2つ

沼澤議員 平成26年から常勤医師の1人が退職され、その補充も叶っていないことや職員教育の充実を今後強化していくとしているが、具体的にはどんな体制を考えているのか。副町長 常勤医師の確保については町長から



診療所のあり方 内部検討会

これからの診療所のあり方は

回答 意識改革含め体制整備を

報告されるが、体制としては救急指定については、一時休止する体制とし、職員教育については診療所理念を徹底していくように日常的な意識改革を実施していく、組織体制の強化に努めていく考えであり、実施している。

沼澤議員 今後の診療所の位置づけと方向性として医師確保について町長の考え方を伺いたい。

町長 医師確保では内科第一を診察してくれる医師が内定して、先生は、救急対応もできることから循環器系や外科系についても活躍してくれると期待している。今後の高齢社会の到来により、保健

沼澤議員 町民の健康を守っているんだという自覚・診療所の運営に貢献しているんだという経営感覚をもち、意識面やサービスの改善・改革に取り組んで行ってもらいたい。

救急休止の 夜間診療どうなる

回答 受診できない



早坂憲明 議員

早坂憲明議員 金山診療所は、平成28年4月から救急指定が休止となる。かかりつけ医として受診している患者さんが、夜に急変して体調を悪くする事態もある。かかりつけ医としての対応は、柴田診療所事務長 医師の勤務体制が過酷となり、やむを得ず宿直体制をなくす方向にした。患者さんにとっては不安な状況になるが、夜間は受診できない。早坂議員 特別老人養護施設「みすぎ荘」に対する緊急時の対応は、

診療所事務長 みすぎ荘の患者さんの場合は、みすぎ荘から車で搬送して、連れて来てもらっていた。診療所には、入院している患者さんがいる。そのために、医師と連絡体制だけは確保する必要はある。電話でオンラインして、30分以内くらいで医師が駆けつける体制をとってほしい。新しく来られた先生方と連携しながら、どんな対応が可能なのかを含めて、検討している。

早坂議員 特別養護老人施設入居者は、原則的に「要介護中重度」だけの入居者に、制度改正された。自宅介護を重要視した改正である。「笑顔で迎える健康長寿」を目指すのが町において、今まで以上に認知症予防が重要性を増す。認知症予防対策をどう考えるか。岸健康福祉課長 認知症の早期発見・早期対応のため、平成29年中に、医療や福祉の専門職が家庭を訪問して、早い時期から適切な支援をおこなう認知症初期集中支援チームを設置する。厚生労働省の資料によると、平成37年には、全国での認知症人数は、700万人前後、高齢者5人に一人の割合と予測している。



認知症研修会

早坂議員 2025年（平成37年）、10年後に高齢者の5人に一人の方が、認知症の割合とされる。わが町の10年後、高齢者予測人口は1800人以上かと思われる。5人に一人の高齢者の方が認知症の割合とす

ると、300人以上の認知症の方が予測される。認知症ゼロの町を目指す手立ての考えは。町長 2025年に、金山に300人以上の方が認知症の症状となることを想像しただけでも、大変な事態である。そうならないように、町として取り組んでいく事が大事である。